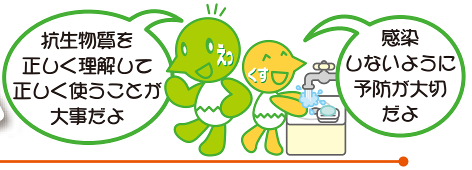
速報 文部科学省等支援プログラム

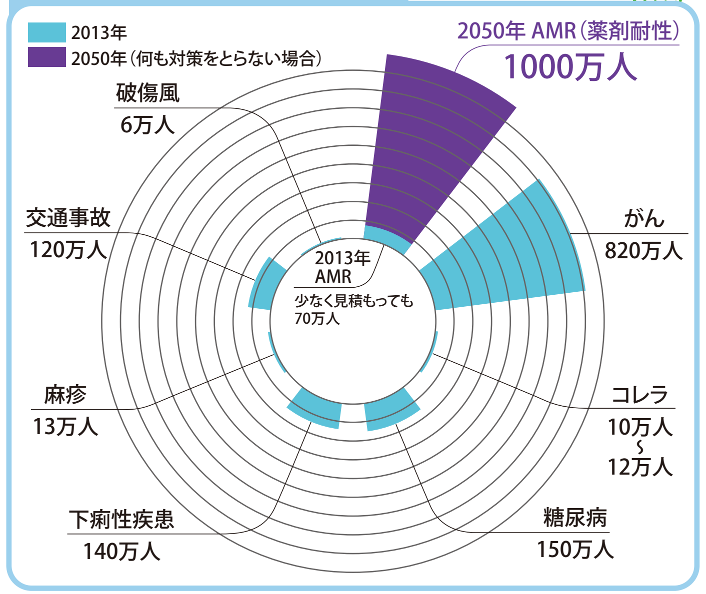


平成29〜31年度 厚生労働省科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

「地域における感染症対策に係るネットワークの標準モデルを検証・推進するための研究」

肺炎や尿路感染などの細菌感染症の治療薬である抗生物質（抗菌薬）が効かなくなる薬剤耐性（英語で、AMRといいます）が、世界的な問題になっています。2013年時点で、薬剤耐性が原因となった死亡者数は70万人程度ですが、このまま何も対策を取らない場合、2050年には、がんを超えて、1000万人が死亡すると推計されています。

薬剤耐性（AMR）に起因する死者数の推定

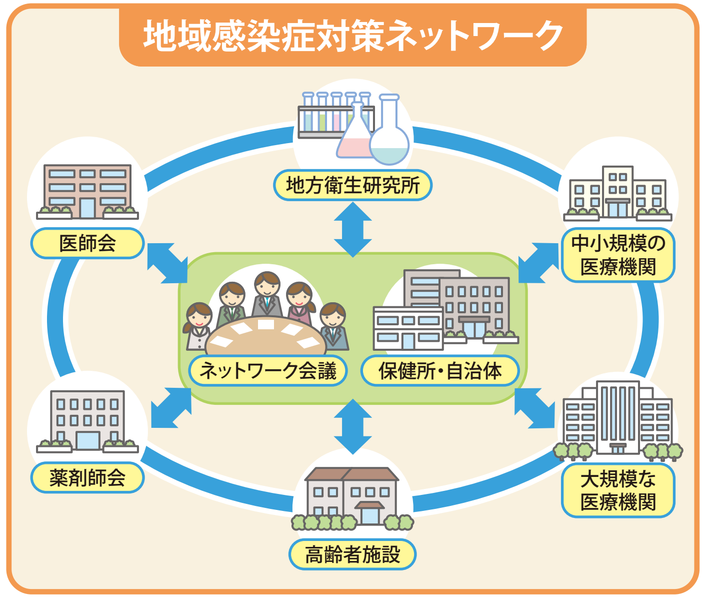


出典元：第1回薬剤耐性に関する検討調整会議（平成27年12月24日）資料2-1
厚生労働省提出資料

世界保健機関（WHO）の加盟国は、薬剤耐性に関する国家的な計画を策定することになりました。また、2016年5月のG7伊勢志摩サミットでもテーマの１つとして取り上げられました。日本においても、検討がなされ、2016年4月に、今後5年間で実施すべき事項をまとめた「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」が策定されました。

薬剤耐性の問題は、ヒトに対する医療に限ったものではなく、動物・食品・環境などに用いられる抗生物質も大きく関連しています。そこで、ヒトと動物の垣根を越え、一つの健康という概念（ワンヘルスといいます）で取組みが行なわれています。また、医療の現場でも、個々の病院だけで取り組むのではなく、病院・診療所・薬局・高齢者施設・保健所・地方衛生研究所などが連携してネットワークを作り、総合的に感染症対策に取り組むことが求められています。

地域感染症対策ネットワーク



しかしどのようなネットワークが良いのかは、まだ分からない状況です。三重県では、2015年から感染症対策の地域ネットワーク（Mie ICNet）を作り活動をしています。今回、薬剤耐性対策も含めた総合的な感染症対策の地域ネットワークを構築するため、三重大学医学部附属病院感染制御部が主体となった研究グループで、検討を行なうことになりました。

研究のスケジュール

啓発活動

抗生物質が効かなくなると、医療は非常に危険なものになります。「いつまでもより良い医療が受けられるよう未来に抗生物質を残したい」その思いを胸に活動しています。

三重県を一つの地域モデルとして、感染症対策を推進するネットワークを構築し、三重モデルを全国に広げていくのが目標です。

薬剤耐性は、医療関係者だけでなく、県民のみなさまにも関連する課題です。11月はAMR月間になります。市民公開講座などを通じて、県民への啓発も行なっていきます。